

荒海小学校創立150周年記念「思い出の桜 バッジに」



発案者 6年 星凜咲さん「バッジを通じて地域や環境を大事にする気持ちを持ち続けてくれるとうれしい。」

10日(水曜日) 福島民報

みんぽうジュニア新聞

読む 知る 学ぶ E!新聞



伐採した桜の木を使ってバッジを作る児童

思い出の桜 バッジに

6年生が中心となって校門付近にあった桜の木を使い、バッジ作りに取り組んでいる。今年度中に全校児童や教職員、地域の関

係者に配布する予定。樹齢100年以上で学校のシンボルだった。しかし枯れてしまい、倒木の危険性があった。昨年11月に全

陸の豊かさも守ろう

住み続けられるまちづくりを

荒海小(南会津町)児童65人

学校でSDGs

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

「何世代にもわたって地域を見守ってきた桜を活用できないか」と児童が話し合った。校章に桜のデザインが入っているため、校章を削いだバッジにすることが決まった。

バッジには、持続可能な地域社会の実現に向けた思いを込めるという。昨年12月上旬には6年生10人が教室で枝をのこぎりで切り、校章を描いた。今回の取り組みを発案した星凜咲さん(6年)は「バッジを通じて地域や環境を大事にする気持ちを持ち続けてくれるとうれしい」と話した。

福島放送(KFB)の「エアリアル」午後4時台で放送予定